

令和5年度事業報告書

特定非営利活動法人

サポートステーション Flat

1 活動の成果

新型コロナウイルスが第5類に移行し、少しずつコロナ前の状態に戻っていく中での運営となりました。事業所として必要な感染拡大防止対策は継続して行いながら、可能な限りコロナ以前の生活に戻れるよう支援を提供しました。必要とされる支援の提供には人材の確保が最重要課題となりますが、障害福祉を取り巻く環境は決して良い状態とは言えず人材の確保がかなり困難な状態が今後も続いて行くと思われます。今年度に関しては、若干の人材確保は行えましたが、居宅介護においてはまだ十分な支援を提供できる体制にはなっておりません。

今後も良い支援を継続して提供できるように職場環境などの整備を行っていき人材の確保に努めていく必要があります。

2 各事業の報告

1 ショートステイ事業

生活介護を利用されている方が制度外の対応として若干の利用がありました。当法人の福祉サービス利用者の補完的な役割としての利用のみとなりました。

2 居宅介護・移動支援事業

重度訪問介護では、年度後半から独り暮らしを行う方の支援が決まり、住居探しや保護者との連絡調整など計画相談事業所と情報共有を行いながら間接的な支援を行いました。重度訪問介護を利用し独り暮らしをしている方への支援が3名となりました。居宅介護は入浴介助や通院介助の定期的な利用が引き続き多くありました。

移動支援事業については、利用ニーズに応えるには十分な人材確保が出来ず思うように余暇活動の提供を行うことが出来ませんでした。

事業全体として介護職員の人材不足の状態が続いており、特に夜間対応の職員確保が最重要課題となっており、数名の介護職員の確保は行えましたがまだ不足している状況なので今後も定期的に求人広告などによって人材確保が必要となっています。

3 生活介護事業

年度途中から1名の方が新たに利用を開始され13名の利用となりました。豆腐作り、畑作業、軽作業（紙袋、犬のクッキー袋詰めなど）の授産作業を行い、毎月の工賃のほかに12月と3月には賞与も支給することが出来ました。季節ごとにレクレーションとして遠足や慰労会、忘年会などの各種行事を企画し作業以外にも楽しみを持って日々をすごせるように取り組むことが出来ました。昨年に続き祝日開所も継続して行い、生活のリズムを安定させる一定の効果があったと思われます。

作業所を閉所することなく一年を過ごせたことで、利用者の方には安定した生活を過ごしていただくことが出来ました。